１１　管内１農場で発生した伝染性胃腸炎（TGE）

鳥取県西部家畜保健衛生所　○渡邊祐治 青萩芳幸

1　はじめに

管内1農場で伝染性胃腸炎が発生し、対策を講じたところ終息に至ったので、その経緯について報告する。

２　TGEとは

TGEとは伝染性胃腸炎ウイルスによって起こる豚の疾病である。元気消失、食欲不振に続く嘔吐と激しい下痢を特徴とし、主に10日齢以下の哺乳豚では死亡率が高くなるといわれている。大規模農場では感受性豚が連続的に供給されるために常在化しやすく、現在全国的に発生が認められている豚流行性下痢（以後PED）と類似している疾病である。

３　最近のTGE発生状況

PEDの発生と比べ本病の発生件数は少ないが、平成25年秋から九州及び関東でほぼ毎月発生があった（表1）。

表1.最近のTGE発生状況(25.11～H26.7)

発生年月	発生県及び発生戸数			
H25.11	福岡県1戸			1戸
H25.12	長崎県1戸	熊本県1戸		2戸
H26.1	宮崎県2戸			2戸
H26.2	群馬県1戸			1戸
H26.3	栃木県1戸	長崎県1戸	宮崎県1戸	3戸
H26.4	栃木県1戸	愛知県1戸	宮崎県1戸	3戸
H26.5	宮崎県1戸			1戸
H26.6				0戸
H26.7	群馬県1戸	新潟県1戸		2戸

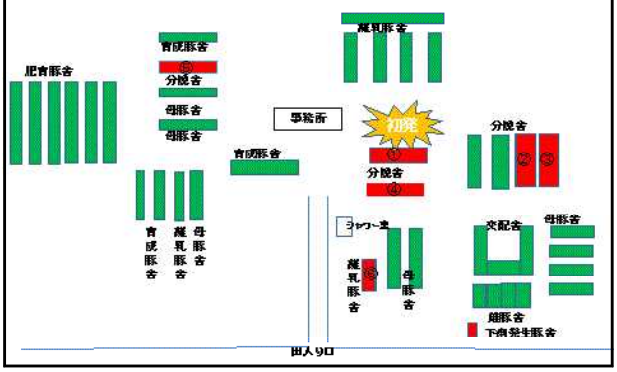
４　発生農場概要

当該農場は母豚800頭規模一貫経営、従業員20名、育成豚導入元は北海道自社農場、肉豚出荷先は徳島県、鹿児島県及び鳥取県食肉処理場である。

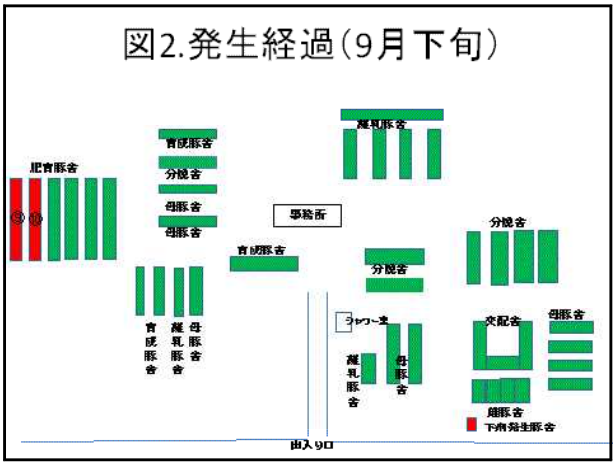
５　発生経過

平成26年8月4日に農場から妊娠母豚のいる豚舎で哺乳豚が下痢しているとの連絡があり、立ち入り検査を行った。この立ち入りの時点ですでに複数の母豚についていた哺乳豚に水様性下痢を認めた。下痢症状を呈した1腹、哺乳豚4頭を倉吉家保に病性鑑定を依頼したところ、8月5日遺伝子検査でTGE遺伝子が検出され、8月7日免疫染色でTGE

図1.発生経過(8月上旬～中旬)



と診断された。農場での聞き取りではTGE・PED混合ワクチン（以後ワクチン）を接種しているとのことであったが、ワクチン接種は1回のみであることがわかり、それが原因で接種効果が無かったことが判明した。

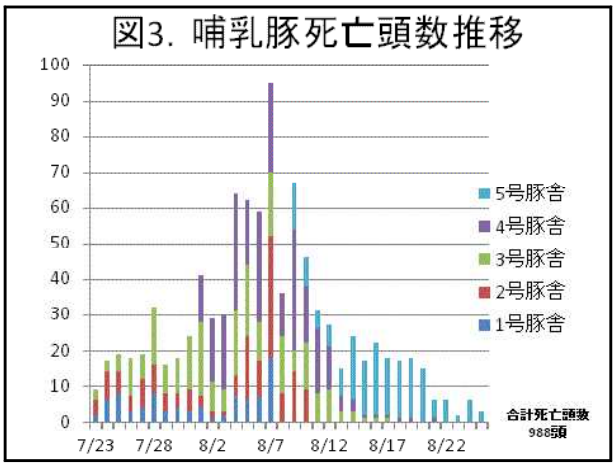


6　豚舎ごとの発生経過

8月4日の時点では分娩舎①～③で水様性下痢を認め、約2週間で分娩舎④、⑤、離乳舎⑥へ感染拡大した（図1）。8月下旬にはさらに母豚舎⑦、⑧へ感染拡大した。その後、一旦9月上旬からはTGEによる下痢は治まったが、再度9月下旬肥育豚舎でTGEによる下痢が認められた（図2）。この肥育豚舎の豚の下痢は11月上旬まで認められたが、他の豚舎に広がることはなく、昨年11月10日以降はTGEを疑う下痢は農場全体で認められなくなった。

7　哺乳豚死亡頭数推移

このTGEが発生していた期間の哺乳豚の死亡頭数の推移である（図3）。死亡頭数は、7月下旬から3つの分娩豚舎の哺乳豚で増加、さらにその後、2つの分娩豚舎でも哺乳豚の死亡が見られた。死亡頭数は8月下旬でピークの91頭に達したが、その後減少し、哺乳豚の下痢による死亡は8月下旬にはほとんど無くなった。9月上旬からはワクチン接種豚が分娩し、 哺乳豚の下痢はなくなった。7月下旬から哺乳豚に下痢による死亡が見られたことから、7月下旬にはすでにウイルスが入ってきていたことが推察された。また下痢をした離乳豚、肥育豚、母豚ではTGEによると考えられる死亡は認められなかった。



8　治療・対策

①治療

発症した哺乳豚については電解質の投与や、二次感染防止のため抗生剤投与を実施した。

②対策

対策としては、本来2回接種すべきワクチンを1回しか接種していなかったことから、母豚全頭へのワクチン2回接種を徹底させた。さらに、豚舎通路への消石灰散布、アウト時の豚舎洗浄を行い、豚舎ごとに従業者を専従化し豚舎間の人の出入りを極力少なくした。やむを得ず豚舎間の出入りをする際は、シャワーを浴びた後に衣服及び長靴交換を実施した。肉豚出荷は毎回家保の立ち会い、臨床観察を行い、臨床症状のある豚については出荷自粛するよう指導した。また、食肉処理場では他の農場へTGEを移さないために、他の養豚農場からの食肉

処理場への出荷が終了した後に、最後に出荷を行った。

９　TGEの終息

以上のような対策を実施した結果、平成26年11月10日以降は、農場内の豚にTGEを疑う下痢は認められなかった。この11月10日から8週間を経過観察期間とし、その間、毎週西部家保が飼育豚の状態を観察したが、TGEを疑う下痢は認められなかったことから、8週間が経過した平成27年1月5日からは、本農場をTGE非感染農場扱いとした。しかしながら、この農場にはいまだにTGE非感染豚が存在することから、引き続き西部家保が、定期的に農場に立ち入り状況を把握している。

１０　まとめ及び考察

本農場では、ワクチンを接種していたが、ワクチン2回接種しなければならないところ1回接種のみであったため、このようなTGE発生による哺乳豚の大量死が発生してしまったと推測する。現在は2回接種するよう指導し、哺乳豚におけるTGE発生を防止している。さらに、豚舎ごとに長靴を設置、消石灰散布、オールアウト後の洗浄消毒の徹底、豚舎担当者専従化等の衛生対策を実施するよう指導した結果、11月10日以降すべての豚舎において下痢の発生は認められなくなった（表3)。本事例の経験により、衛生管理の徹底が本病対策に重要であることがわかった。伝染病発生予防のためにも、継続した衛生管理、意識の高揚に努めていくことが大切であると再認識した。